

information



### 日本発!地域密着型プラットホーム

## 一般社団法人 マーチング委員会とは…

(一社)マーチング委員会は、日本全国のまちを元気に明るくするために、それぞれの地域の人達で結成された全国60の委員会のネットワークです。

先議後利を理念として掲げ、美しい日本のまちなみを描いた各地域のまちなみ百景の製作を通して人と人、人とまちをつなぐハブとなり地域イベントの企画運営、観光振興の支援、地域の物産品の開発～販売支援、教育支援等、その地域に根差した様々な地域活性活動をしております。

内閣府地方創生SDGs官民連携プラットフォームにも加盟し持続可能な社会づくりも目指しております。

お問い合わせ先／本部・事務局 担当：利根川芳明

〒113-8521 東京都文京区湯島1-7-11

(株)TONEGAWA内

TEL:03-3811-1111 FAX:03-3811-1230



### あなたの街の委員会紹介 浜松町・芝・大門マーチング委員会 <http://www.konicaminolta.jp/pr/machi/>



マーチング関係者と打合せ



港区のお散歩ツアー参加者と記念撮影

東京は港区芝の臨海部に広がる浜松町。かつて東海道の日本橋と品川宿をつなぐ要路にあり、近くには徳川将軍家の菩提寺・増上寺があるなど江戸のおもかげが残るまちです。文明開化の象徴である鉄道が最初に通ったのもこのまち。いま東京港を臨んで超高層マンションや先端企業本社の近未来風景が広がっています。モノレールで空港、そして世界とつながる浜松町はグローバルな発展の可能性を秘めたまちです。

当委員会と港区は、令和3年3月に「まちなみイラストを活用した港区のシティプロモーションの推進に関する協定」を締結して、相互に連携して当委員会が作成する「まちなみイラスト」をさまざまな手段及び媒体において活用し、港区の魅力を広く発信しています。



#### 浜松町・芝・大門マーチング委員会

所在地 東京都港区芝浦1-1-1 浜松町ビルディング26階コニカミノルタジャパン内  
代表 日比野 薫  
企業HP コニカミノルタジャパン株式会社 <http://bj.konicaminolta.jp>  
連絡先 090-2428-4128 (日比野)

表紙(右下)の写真:港区職員及び港区内の他マーチング委員会関係者と「浜松町・芝・大門マーチング委員会」の日比野代表

### 地域活性情報誌『プラス・エム』Vol.3

2021年11月16日発行 発行／浜松町・芝・大門マーチング委員会・コニカミノルタジャパン株式会社 協力／一般社団法人マーチング委員会

〒113-8521 東京都文京区湯島1-7-11 株式会社TONEGAWA内ビル内

TEL: 03-3811-1111 FAX: 03-3811-1230 メールアドレス: [injapan@machi-ing.jp](mailto:injapan@machi-ing.jp)



マーチング委員会は地域活性を各地で実践する印刷関連会社を中心とした全国ネットワークです。

※本誌掲載記事・写真の無断複写・複製・転載を禁じます。

社会・地域貢献事業 by マーチング委員会  
日本を再発見!

## あなたの街の「地域活性」を支援する情報誌



人が笑む、街も笑む。  
[プラス・エム]

2021.11

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

マーチング委員会は「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に加盟しております。



### 今号の街／東京都港区

作品タイトル：新橋SL広場 作家：上野啓太

新橋SL広場は、JR新橋駅の日比谷口にある駅前広場のことです。ここには、C11形蒸気機関車が屋外展示されていることから、通称「SL広場」と呼ばれています。新橋はじめ虎ノ門や銀座に勤めるサラリーマンやOLの待ち合わせ場所として定着しています。SL広場はテレビの街頭インタビューでたびたび登場します。



あなたの街で活動する  
『浜松町・芝・大門マーチング委員会』の  
活動を裏表紙でご紹介します! ▶▶▶

特集：マーチング活動事例紹介① 台東マーチング委員会・望月印刷 株式会社

手描きのまちなみイラストがコロナで疲弊した社会で求められている

特集：マーチング活動事例紹介② いわきマーチング委員会・株式会社 いわき印刷企画センター

私の百景→会社の百景→地域の百景へ。感動を広げる新たなチャレンジ

各地の委員会おすすめ!「地域のお宝自慢」 地域を元気にする「地域メディアと取り組み」

## 浜松町・芝・大門マーチング委員会

浜松町・芝・大門マーチング委員会は、わたしたちのまち 東京都港区を明るく、  
元気にしたいと願う多様なメンバーによって人と人、人とまちをつなぐ様々な活動をしています。

2021  
Late  
Autumn

この紹介事例にご興味のある方は、お気軽に  
一般社団法人マーチング委員会へご相談ください。



東京都台東区  
台東マーチング委員会  
望月印刷 株式会社  
担当：牛込秀行

## 手描きのまちなみイラストがコロナで疲弊した社会で求められている



### beforeコロナ、afterコロナ

以前は1人の社員が担当していたマーチング活動だが、今年の3月頃から5人体制にして、毎月の定例ミーティングも設けるなど、活動の仕切り直しをしているという台東マーチング委員会。そこには、コロナ禍で得られた気づきがあるという。

コロナ前から、隅田川の屋形船や地域振興イベントで知り合ったお店などにまちなみイラストの絵葉書を置いてもらっていた。屋形船や隅田川などのイラストだからそこに来る人たちは親近感を持ってくれると期待していたのが、反応がイマイチ。そういううちにはコロナになり販売を休止してしまった。他には、東京都の産業展への出展や、自社の玄関先で絵葉書などの無人販売を行ってきたが、いずれもぼちぼちという程度だった。

潮目が変わったのは、コロナにより人々の生活に閉塞感が広がってからだ。2021年1月の産業展でイラスト展示と絵葉書の販売をしたところ、多くのお客様が足を止めてくれ、「こういうのはいいね」「ホッとする」などを声をかけてくれるようになったのだ。また、会社の玄関前での無人販売も、看板を大きくしたりしたところ売れ行きがこれまでの6倍くらいに増え、立ち止まってイラストに見入る人の姿も見られるように。

人通りの多くない通りにしては画期的なことだ。中にはエントランスの内線電話



から問い合わせてくる人も出てきた。ただ代金を投入して購入すればいい仕組みなのだが、「これはどういうものなのか、ちょっと話を聞かせてください。興味があるので」というのだ。

「こうしたお客様の声からわかるのは、CGやデジタルではなく、手描きのイラストであることが魅力だということ。みなさん、コロナ禍やテレワークで疲れて、アナログ的な温かみのあるものに飢えているかもしれません。マーチングのイラストは地域の人々に刺さるコンテンツなんだと感心しました」という牛込さん。こうした店頭販売や産業展の反応が良かったことにより、マーチング活動に関わる社員たちの士気も上がり、自主的にマーチングのイラストを使った販促展開の提案も出てくるようになった。8月からは、イラストを使ったマグカップなどのグッズのweb販売も始めている。

### イラストを有効活用し 地域とつながる活動にシフト

もともと台東エリアは観光客が多く集まるところで、人気のイラストは吾妻橋、柳橋など、昔ながらの地域のシンボル的なものだった。コロナ禍で観光地は打撃を受けたとはいえ、やがて、観光客も戻ってくるだろう。その時に台東区のお土産として、まちなみイラストやイラストグッズを販売していきたいといろいろ計画しているそうだ。

また、台東マーチング委員会を主宰している望月印刷は大手企業との取引による商業印刷つまりBtoBがメインで、地域密着の活動をしていなかった。しかし、まちなみイラストにより地域での認知度を高めていくという手応えを得て、今後は、イラストにより地域とのつながりを広めていきたいと考えている。実際、社長が名刺や絵葉書、カレンダーを持参して区役所への定期訪問を始めた。郵便局に広告ポスターを出して、イラスト

付き年賀状の受注計画も進めている。今後は、他のマーチング委員会が行っているような区役所や商店街でのイラスト展など、もっと地域の人に喜んでもらえる活動を考えていきたいと、抱負を語ってくれた。

新型コロナのパンデミックは社会全体を厳しい状況に陥れたが、その反面、人の心にとって何が大切かを見つめ直す

機会にもなった。その中の癒しの一つがマーチングの活動であるという証明を台東マーチングの事例からうかがい知ることができた。

今後はマーチング活動をもっと本業につなげていきたいというのが目下のテーマだというが、地道でも一歩一歩着実に前進している印象を受けた。■

今年8月から開始したweb販売のサイト



### 暮らす人々を繋ぎ共感を生む まちなみイラスト

地域で暮らす人たちの繋がりをさらに強くするには、その土地ならではの共感を育むことが重要です。まちなみ百景イラストは、まちなみを再発見させることで自分たちの街のアイデンティを高め、街への誇りを醸成してくれます。その想いを共有し、語らう場が生まれれば、新たな繋がりも作られて行きます。あなたの街のまちなみ百景を活用し、新たな場と繋がりづくりを進めてみてはいかがでしょうか。

この紹介事例にご興味のある方は、お気軽に  
一般社団法人マーチング委員会へご相談ください。



福島県 いわき市  
いわきマーチング委員会  
株式会社 いわき印刷企画センター  
代表：鈴木 一成

## 私の百景→会社の百景→地域の百景へ 感動を広げる新たなチャレンジ



国宝 白水阿弥陀堂

### クラウドファンディング& YouTubeに挑戦

マーチング委員会の中で3番目にスタートしたいいわきマーチングは、鈴木さんの「これいいな、すぐにやろう」という思いで2010年10月から始まった。自分の思いから始まったマーチング活動が、やがて会社の活動になり、その後地域の活動へと広がってきている。東日本大震災の時も「いわきひとまち百景」のイラストは様々な形で被災地での交流グッズや癒しとして役立った。

そして、今後の持続性を考えた時に、必要なのは、もっと社会を巻き込むことだと考えた鈴木さんは、今までの発信ツールだけでは弱いので、YouTubeを使ってみようと思いつく。自分がYouTubeで発信し、募金などで百景のイラストを増やしていく仕組みが作れたら持続性も高まる。そのプランが以前から興味のあったクラウドファンディングに結びついた。「これまで自分たちのお金でやってきたマーチングだけど、どうやってファンを増やしていくのかと考えていた。そこで、クラウドファンディングで出資者からお金をいただいてそのお金でひとまち百景のイラストを増やしていくなら、一石二鳥だと思ったんです」という鈴木さんの行動力は実に見事だ。信用組合と一緒に進行「MOTTAINAI もっと」というクラウドファンディングに挑戦。



新聞でも紹介されました



鹿島ショッピングセンターエアリア様での展示会



やる気あふれるインターン生

目標は20万円、期間は4月16日から1カ月。告知方法は、地元の相双五城信用組合にチラシを置いてもらったり、鈴木さん自身がYouTubeで情報を発信したり、スーパーで仮設のイラスト展を開いたりした。当初は支援額を6千円と8千円にしてリターンは百景のグッズをプレゼントすると設定したが、社員からもっと高額なものもあったほうがいいという意見があり、支援額6万円で上野啓太さんにイラストを描いてもらえるリターンにしたところ、これだけでたちまち目標額に達することに。結果は、支援額483,000円、達成率241%。

クラウドファンディングにはさまざまなメッセージも寄せられ、「昔からファンでした、頑張ってください」「いつもお世話になっている神社がないのはおかしい、私がお金を出すからそこを描いてください」などの声が活動に関わるメンバーのモチベーションを高めた。そうして、新たに5カ所のイラストができ、贈呈式を行い、新聞でも紹介された。

なお、商業施設における恒例の夏のイラスト展は今年も開催した。ただイラストを展示しておき、静かに見てもらう方法なのでコロナの感染のリスクはほとんどない。

今年11月には市のまちづくり予算により、上野さんに来てもらってイラスト展と絵はがき教室を行う予定だ。

### インターも巻き込んでみたら

もうひとつ、新たな挑戦としてインターшибの受け入れを行っている。1月に地元出身で東京の大学に進学しているがコロナで大学が閉まって登校できないという学生をインターとして数日間受け入れた。9月には地元の学生3人を受け入れ、マーチングに関わるお店の取材や、自社社員へのインタビューなどをしてもらい、会社のブログの記事も書いても

らった。例えば、「営業ってどんな仕事?」という取材では、社員もハリハリで話しているのを見て、社内に新たなエネルギーを感じられたと言う。その後、インター志望者が1人増え、今度は週1回など継続して有給のインターшибを行う。これもまた新しい取り組みであり、マーチング活動にもどのような刺激となるか楽しみである。

故郷を離れて東京で大学生活を送っている若者にとって、改めて地元の良さを知るきっかけにもなるのではないか。鈴木さんの描く「地域の百景」に巻き込む力がさまざまな形で広がっているのは間違いない。



### 地域活性の主役を呼び起こし、 地域を元気に

いわきマーチング委員会の事例のように、地域の方々にもまちなみイラストの製作に協力してもらうことで、街で暮らす方々や学生さん達も地域活性の主役へと引き上げができるようになります。一緒に活動することで街への想いが深まり、街が元気になって行きます。街の人々と共に創する舞台・仕組みを作るのも、地域活性への取り組みのひとつです。



石川県 七尾市 石川マーチング委員会  
石川印刷株式会社 担当：北原 和典

### 能登前寿司ランチで会話もぴちぴち 午後からも元気 能登前寿司ランチメニュー

#### ちらしランチ・にぎりランチB・ 地物おまかせ寿司 能登前寿司14貫



店主みずから、毎朝市場に行き、直接お魚を見て買い付けしています。およそ30種類以上の新鮮な地元のネタが揃います。能登で捕れる定番のもの、旬のものを味わうことができます。ランチの時間では、ランチメニュー以外に地物おまかせ寿司というメニューもあり、大人気です。お好みなお寿司1貫の追加もOK。一本杉通りの近くのお店です。ここは、でか山の街の能登前寿司 千代ずし

〒926-0865 石川県七尾市松本町二25-1 <https://www.chiyozushi.com/>  
TEL:0767-57-5316 営業時間:11:30~14:00, 17:00~22:00(L.O.21:30) 定休日:水曜日



google  
ストリートビュー



ユネスコの無形文化遺産に登録されている青柏祭(毎年5月3日・4日・5日に開催)でも有名な七尾市で、能登半島の里山里海の恵みと職人の技をぜひご堪能ください!



東京都 文京区湯島 湯島本郷マーチング委員会  
株式会社TONEGAWA 担当：利根川 芳明

### 湯島天神に梅の香り満ちて 東京に春が訪れる 湯島天神 梅まつり

#### 開催期間 毎年2月8日~3月8日



湯島天満宮は、学問の神様として知られる菅原道真公をご祭神とし、古くから「天神様」として親しまれており、学業成就・合格祈願の参拝者で賑わっております。

梅まつりの開催期間中、都内にご用のある委員会の皆様方には、数多くの奉納演芸、各物産展等の催し物も企画されております。

湯島天満宮  
〒113-0034 東京都文京区湯島3-30-1 <https://www.yushimatenjin.or.jp/>  
TEL:03-3836-0753(社務所)



琵琶・尺八・お琴の演奏や、野点もお楽しみいただけます。

おりますので、ぜひご参拝方々、道真公の愛した梅の花に思いを馳せご観梅くださいませ。



### 鍋島裕俊が選ぶ キラリ☆輝く 地域メディア



file No. 06

### 地域に関連する諸事象を、 50音の形式でカード化した「郷土かるた」

奥尻観光協会「奥尻かるた」紹介ページ <http://unimaru.com/?m=201305>



今回の地域メディアは、探せば全国いたる所にある「地域かるた」を紹介します。同時に「地域かるた」を地域で作るワークショップについても触れます。

「地域かるた」とは、地域に関連する諸事象を、50音の形式でカード化したもので、土地の記憶、日常の営みを伝える“郷土かるた”的ことです。

探してみると東京近郊にも多々あります。一例を挙げると、埼玉県は「いわつき郷土かるた、おおみや郷土かるた、かすかべ郷土かるた、かわごえ郷土カルタ、ぎょうだ郷土かるた、等々」千葉県は「かしわ郷土かるた、銚子かるた、野田かるた、房総子どもかるた、松戸かるた等々」東京都は「いたばしカルタ、かつしか郷土かるた、すみだ郷土かるた、豊島区郷土かるた、八王子郷土かるた等々」神奈川県は「おだわらこどもかるた、鎌倉かるた、かわさきかるた、さがみはら郷土歴史かるた、横濱歴史イロハカルタ等々」。

私が持っている「地域かるた」は、北海道の奥尻島「奥尻かるた」で、奥尻島の名物・地名・暮らしを、素朴な島ことばとおどけたイラストで表現しています。

私が「キラリ☆輝く 地域メディア」に「地域かるた」を紹介した意味は、持続可能な地域・社会の実現に向けて、人と土地、人と人との繋がる新たな文化を創るツールとして「地域かるた」を活かせたら良いな、それをマーチング委員会がプロデュース＆ファシリテーションしてほしいな、と考えたからです。

「地域かるた」のワークショップ、特に地域と大学がコラボして実施したことを私が知ったのは、数年前。最近は小・中学校の授業で“街を知ろう”という課題で街のかるたを作るを行っているという情報も聞こえています。

地域と大学がコラボした例は、芝浦工業大学建築学部の志村教授のゼミで、江東区とコラボして単語帳形式の「かめたん」を作りました。志村教授は、2018年に「東京湾岸地域づくり学」という本も書かれています。この「かめたん」は、亀戸文化センターが開いた講座「亀戸のまちのサポーターになろう」の受講生と志村ゼミの学生によって作成されたもので、実際にまち歩きし参加者が感じた亀戸の顔、親しみのあるもの、ユニークなものなどを選んで作られています。形は名刺より少し大きくて単語帳のように持ち運びしやすいデザイン、全143ヶ所が写真付きで解説されています。

「かめたん」は「地域かるた」ではありませんが、地域の世間遺産やヒト・ミセ・モノ・コトを紹介しており、手を持って地域巡りができるツールです。

「かめたん」は作成時に、カードに載せた対象を参加者が実際にまち歩きして選びました。「地域かるた」も同様で、地域資源をまち歩きして選びます。



◎自分たちの住み暮らす地域は、他とは違うんだ、まさに地域に独自性があり、その見える化は、今回の「地域かるた」によって具現化するでしょう。アイデンティティを持つ地域の実現を、マーチング委員会がプロデュース＆ファシリテーションすることで完成させましょう。全国各地のマーチング委員会メンバー、自分たちの地域で、地域に住み暮らす老若男女と一緒に「地域かるた」をイラストで一緒に作ろうではありませんか。



鍋島 裕俊

折込広告文化研究所 代表

元 朝日オリコミ社長室長、メディア戦略アドバイザー

朝日新聞社系の折込広告会社に営業で入り、その後、出版、マーケティングを経て、現在、メディアの方向性を考える戦略セクションに所属。折込広告全国大会の分科会やセッションのプロデュースを担当。

折込広告に関する過去の著作は、「商業界」「食品商業」「宣伝会議」「販促会議」「物価資料」など多数。